

## 新刊紹介

ピノグラドヴァ, K. L. 1979. ソ連極東沿岸産海藻の分類, 緑藻 (Виноградова, К. Л. Определитель водорослей дальневосточных морей СССР. Зеленые водоросли. «наука», Ленинград, 1979), 147 頁, 図 67, 図版 18.

レニングラードのコマロフ植物研究所からソ連沿岸産海藻の分類についての総括的な著書が今までに 3 冊出版されている。いずれも A. D. ZINOVA によるもので, それらは “ソ連北部沿岸の褐藻 (1953), 同紅藻 (1955), ソ連南部沿岸の緑藻, 褐藻, 紅藻 (1967) である。今回紹介する論文はこのシリーズの第 4 部目になり, 極東沿岸全域を対象としたものとしては最初のものである。

本論文で, 極東沿岸産緑藻 9 目, 13 科, 34 属, 63 種について記載, 註釈, 図, 写真等を与えている。更に今までに近接地域から報告されたもので, 元来極東地方に確実にあると判断される microscopic なもの等 21 種を加えている。材料として 1966 年のサハリン, 1968, 1977 年のベーリング海沿岸の expedition に著者自身が参加し採集したものと, コマロフ植物研究所の標本室に所蔵されている標本を用いている。内容は下記の順序に配列している。

### Chlorophyta

#### Siphonophyceae

Siphonales (Bryopsidaceae, Codiaceae)

Siphonocladales (Siphonocladaceae, Cladophoraceae)

#### Chlorophyceae

Tetrasporales (Prasinocladaceae)

Chlorococcales (Chlorochytriaceae)

Ulotrichales (Ulotrichaceae)

Chaetophorales (Chaetophoraceae)

Acrosiphoniales (Acrosiphoniaceae)

Ulvales (Monostromaceae, Gayraliaceae, Capsosiphonaceae, Ulvaceae)

Schizogoniales (Prasiolaceae)

それに位置不明のものとして *Collinsiella* 属と *Blastophyza* 属がある。

このうち Ulvales は著者がすでに発表した論文 (1974, ソ連沿岸の緑藻, Ульвовые водоросли (Chlorophyta) морей СССР—特に Ulvales について扱ったもの) と重複する部分がかかなりあり 1974 年の論文の方が詳しく記述されているのでそれを参照した方がよい。又, 本論文の中で新組合せが 4 種あるので附記しておく。

*Codium yezoense* (TOKIDA) VINOGR. comb. nov.

(=*C. dichotomum* var. *typicum* subvar. *yezoense* TOKIDA, 1954)

*Acrosiphonia saxatilis* (RUPR.) VINOGR. comb. nov.

(=*Spongomorpha saxatilis* (RUPR.) COLLINS, 1909)

*A. heterocladia* (SAKAI) VINOGR. comb. nov.

(=*Spongomorpha heterocladia* SAKAI, 1954)

*A. ochotensis* (TOKIDA) VINOGR. comb. nov.

(=*Spongomorpha ochotensis* TOKIDA, 1932)

*Acrosiphonia* 属と *Spongomorpha* 属との関係については PERESTENKO, L. P. (Новости сист. низш. Раст., 1965, 50-64) が既にパレンツ海産のものについて論じており, 基本的に著者は PERESTENKO の見解に従って新組合せを行なっている。従って, 種ごとに新組合せの理由を記してはいないが, 目, 科, 属の記載, 註釈等で形態, 核の数 (*Acrosiphonia* では Protonema 状細胞で単核, 直立部細胞で多核) 等が述べられている。著者の見解では極東沿岸には *Spongomorpha* 属はなく (北大西洋のみ), *Acrosiphonia* 属には上記 3 種と *A. duriuscula* (RUPR.) YENDO, *A. arcta* (DILLW.) J. AG. の計 5 種があることになる。

このシリーズは研究報告というよりもむしろ研究結果をある時期に纏めて総括するといういわば教科書的なセンスで書かれているために, 著者自身のオリジナリティがどの程度あるのかわかりにくい。例えば用いられている図は既報の転載が多く原図が殆んどないことなどである。しかし前述のように我々が留意すべき記述もあり参考になる点も多い。コマロフ植物研究所の海藻部門では最近ウラジオストック附近を中心とした日本海沿岸等極東地域のフロラの完成に力を注いでおり, 本書にひきつづき紅藻の分類も近い将来出版されると聞いている。

(小樽商大 山田家正)

## 新 刊 紹 介

LEE, I. K. (李仁圭), 1978. **Studies on Rhodymeniales from Hokkaido.** Journ. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. V (Botany), 11 (1): 1-194, Pls. I-V.

本論文は北海道沿岸に生育する紅藻 Rhodymeniales (ダルス目) に所属する 6 属 10 種 (*Halosaccion yendoi* I. K. LEE sp. nov. ベニフクロノリ, *H. firmum* カタベニフクロノリ, *Palmaria palmata* ダルス, *P. marginicrassa* I. K. LEE sp. nov. アツバダルス, *Rhodymenia intricata* マサゴシバリ, *R. pertusa* アナダルス, *Chrysmenia wrightii* タオヤギソウ, *Lomentaria hakodatensis* コスジフシツナギ, *L. catenata* フシツナギ, *Champia parvula* ワツナギソウ) についての分類学的研究である。この研究は生育地 (忍路, 室蘭, エリモ岬, 厚岸) での季節的消長に関する観察と, それによって得られた幼体から老成体に至る材料をもとに雌, 雄生殖器官, 四分孢子囊の発達過程をはじめ, 外形, 内部構造など各種の諸特徴を詳細に記述し, それらの知見をもとに分類学的な再検討を行なったものである。本論では上記 10 種ごとに, Material, Description, Phenological observation, Morphological observation (External appearance, Structure of thallus, Reproductive organs), Discussion が記され, 纏めの General account の項では, Key to taxa of Rhodymeniales in Hokkaido, Phenology, Morphology, Taxonomical Discussion が述べられている。この中で 2 新種, *Halosaccion yendoi* と *Palmaria marginicrassa* が記載された。従来我国で *H. saccatum* KÜTZ. ベニフクロノリと呼ばれていたものは異なる 2 種を含むものであり, その 1 つが今回新種とした *H. yendoi* で, 他の 1 つは *H. glandiforme* であると結論した。*H. yendoi* は体構造と四分孢子囊形成過程が *H. glandiforme* と異なり, 分布域は北海道沿岸 (日本海沿岸と室蘭以南を除く), エトロフ, クナシリ, シコタンの南千島, 樺太の Robben Isl. である。

*H. glandiforme* は北海道にはないことになるが, 後に著者は, この種はウナラスカ, アッツ島, カムチャッカ, 千島に生育すること, 北米太平洋沿岸で *H. glandiforme* と呼ばれているものはこれと異なるという見解を発表している (LEE, I. K., MAKIENKO, F. & KUROGI, M. 1979. 本誌 27 (1): 25-30)。従って日本産の *Halosaccion* 属は *H. yendoi* と *H. firmum* の 2 種を含むことになる。*Palmaria marginicrassa* は日高以東の太平洋沿岸にあり, 葉状部皮層部 (特に周縁部の) が著しく厚く, 四分孢子囊形成時に特有な paraphysis ができることなどからダルスとは明らかに異なるものであるとし, 四分孢子囊形成に際し stalk cell ができること, 雌性体が見つからないことなどから, *Palmaria* 属に入るものであることを明らかにした。

著者は更に, 分類学的論議の中で, 前記 10 種にすでに発表した *Binghamia californica* を加えた 11 種について, 体構造, 雄性生殖器官, 四分孢子囊形成などについて夫々比較検討し, 又, ダルス目に含まれる 21 種をとりあげ雌性生殖器官の特徴を比較した。それらの検討を経て著者は, KYLIN (1931) が Lomentariaceae を 2 亜科, Lomentarioideae と Champioideae に分けた点に言及し, 栄養体構造, 生殖器官, 特に雌性生殖器官の発達過程などで両者は全く異なることを指摘し, 別科とすべきであるとした。結論として著者は, Rhodymeniales は Palmariaceae GUIRY (1974), Rhodymeniaceae HARVEY (1849), Lomentariaceae NÄGELI (1847) emend. I. K. LEE, Champiaceae KÜTZING (1843) emend. I. K. LEE の 4 科を含むとした。尚, 参考までに, GUIRY & IRVINE in GUIRY, M. D. 1978 (The importance of sporangia in the classification of the Florideophyceae. In IRVINE & PRICE (ed.), Modern approaches to the taxonomy of red and brown algae. Acad. Press, London, pp. 111-144) は雌性体の欠除, 四分孢子囊形成時の stalk-cell の存在などの形質をもとに新目 Palmariales (Palmariaceae 1 科, *Palmaria*, *Halosaccion*, *Leptosarca* の 3 属を含む) を設立したことを附記しておく。

このように *Palmaria*, *Halosaccion* 両属は現在種々論議されているが, この基礎的な研究によって Rhodymeniales のみならず, 紅藻の分類・系統が今後一層進展すると期待される。

(小樽商大 山田家正)